

## 平成 25 年度第 3 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 26 年 1 月 28 日（火）午後 5 時～7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、柴田委員、高松委員、田中委員

事務局出席者

山崎（校長）、繁内（教頭）、中尾（事務長）、藤井（首席）、徳田（教諭・教務主任）

常盤井（教諭・進路指導主事）、岡本（教諭、2 年主任）、吉田（教諭・1 年主任）

奥村（教諭、支援教育コーディネータ）

### I. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 本校の現状報告（校長、藤井、吉田）

- ・学校評価について
- ・学校教育自己診断について
- ・1 年生の基礎学力向上対策について

(3) 保護者からの意見について

(4) 質疑・応答

### 内容

< 挨拶 >

校長より 入試制度の改変（学区がなくなる、2 年後内申が絶対評価に等）、普通科総合選択制の再編整備計画等。

< 現状報告 1 >

#### **25 年度学校評価について報告（校長）**

25 年度学校経営計画の重点目標達成状況について報告

1 「学力の向上」

(1) 「わかる授業」をめざした授業改革

- ・基礎学力診断テストの活用について

ベネッセの進路マップ（国・数・英）使用。4 月と 10 月に実施。A～D の 4 段階のうち C 以上の比率は 1 年生で 50.4% から 65.7% に上昇。特に国語の成績が伸びた。全国的には 2 回目は 1 回目より落ちる傾向があるが、本校は上昇している。学校全体で授業改革に取り組んだことや、学年団を中心にマナトレを活用した取組みを 1 年間継続して行ったことの成果が表れたのだと思われる。

(2) 中学校との連携

- ・地元 5 中学との連絡会（年 4 回）を今年度も実施。活発な意見交換が行われた。
- ・本校教員による中学校の授業見学 26 人参加（昨年度は 22 人）。
- ・中学校の教育活動に貢献。本校教員派遣人数：出前進路学活 7 中学 38 名、出前授業 5 中学 7 名、進路説明会 4 中学 4 名。

以上のように中学校との連携が質・量ともに充実してきている。

## 2、「社会で生きるための諸能力の向上」

### (1) 共生推進教室の取り組みを生かす。

- ・共生推進教室のシステムの確立

今年度から始めた共生推進教室は、学校前スーパーでの職場実習・地域活動への参加・東北復興支援ボランティア活動への参加など順調に進んでいる。授業ではコミュニケーションの取り方等、社会に出るための学習をおこなっている。

### (2) キャリア教育・・1 月 8 日時点の就職内定率 81%（昨年度は 70%）

### (3) 規範意識の育成・・2 学期末までの遅刻者数昨年度比 33%減

## 3、「総合選択制の長所を生かした教育活動の展開」

### (1) エリアの教育内容の充実

- ・エリア授業の充実・・1 年対象のエリアガイダンスを年 3 回実施し、目的意識をきちんと持ってエリアの学習に入れるような体制を整えた。  
エリアの授業満足度は昨年度と同率の 74%であった。
- ・エリア発表会の充実・・茨木市民会館で発表会・展示会を実施した。  
発表内容・展示作品ともにレベルが上がったという生徒の感想が多く寄せられた。

### (2) 大学・地域との連携

学校教育自己診断では、「地域へ出かける機会がある」の項目は昨年度比 20%増であった。回数としてはそれほど増加していないので、内容の充実がこの数字に反映していると考えられる。今後、内容をさらに充実させる方向で取り組んでいきたい。

## 委員：

- 中学でも少人数指導を導入してわかる授業に取り組んでいる。英語は習熟度別に基礎講座と発展講座を設定し、生徒に選ばせている。そうすることで、生徒は意欲的に授業に参加するようになり、効果があった。
- 「つばさ高校」は地域によく出ていると普段から感じている。ここ 1, 2 年それが目立つようになってきている。
- 今月 19 日に茨木市青少年センターで実施した紙芝居の読み聞かせでは、6 人（3 年生 4 人、2 年生 2 人）のつばさ生徒に協力してもらった。12 月の選書や、1 月 14 日

のリハーサルにも積極的に参加してくれ、当日も9時に全員がそろって開始できた。何度も読み聞かせを行ったが、みんな熱心に取り組んでくれ、センターから感謝された。会場では小学生から大学生まで交流ができた。次回は自作の紙芝居をやりたいという生徒もいた。また、同じ時に開催した音楽ライブにつばさ高校から3バンドも参加してくれた。地域と交流する一例として報告する。

## <現状報告2>

### 本年度の学校教育自己診断について（藤井首席）

#### （1）昨年度からの変化

①各質問項目の回答ポイントから見ると、教員の自己診断は変わらないが、生徒、保護者は肯定的評価をしている。（診断ポイントの平均値では、教員±0、生徒+3、保護者+4）

②保護者向けのアンケートの回答数が増加（146通から219通へ1.5倍に増加）

#### （2）重点課題の改善と課題

学校経営計画で重点課題とした「わかる授業（やる気喚起の工夫）」に関する自己診断結果は、昨年度に比べ、生徒で14ポイント（41ポイントから55ポイントへ）、保護者で9ポイント（41ポイントから50ポイントへ）、教員で3ポイント（67ポイントから70ポイントへ）アップした。1年間、「わかる授業」を目標に全教員が取り組んできたことが数字の変化に現れたと考えられる。ただ、生徒の肯定的評価は55ポイントであり、「道半ば」といえる。今後継続して取組みを進める必要がある。

「ていねいな生活指導」というテーマに関しては、保護者の肯定的回答が7割で、昨年度より8ポイント上がった。

## <現状報告3>

### 1年生の基礎学力向上対策について（吉田教諭）

7期生の学び直し学習の取り組みを報告

目的①中学までの勉強で理解できていない分野を明らかにし、学びなおす。

②家庭学習の習慣をつける。

方法①基礎学力テキスト「マナトレ」を使って家庭学習を行わせる。

②各月の4週目をマナトレウィークとして、英数国のテストを実施。

③テストはテキストと同じ問題とする。

④各クラスの平均点を集計し、毎月上位3クラスを表彰する。

⑤合格点に達していない生徒にはベースアップ講座を実施。

成果①生徒たちのつまづいている箇所が明らかになった。

②家庭学習に具体的な教材を示すことができた。

③少なくともマナトレウィークには家庭学習をするようになった。

④基礎学力テストの結果が上昇した。

⑤現時点で成績不振を主な理由とした転学生徒はいない。

課題①ベースアップ講座を実施してもついていけない生徒がいる。

②講座担当者の負担が大きい。

委員：

○学び直しは1年生だけの実施か。

事務局：

そうです。この学年が2年生に上がった時にどうするかは、これからの課題。

委員：

○数学では分数や小数でつまづいている生徒もいると思われるが、ここを克服すれば、数学以外の教科も好きになるのではないか。

事務局：

現状、マナトレ「平準編」を使っているが、そのような生徒には「基礎編」を使用すれば、理解が進むかもしれない。

委員：

○1年生に成績不振を理由とした転・退学者がいないのはいい。

事務局：

数学Ⅰの授業では、2クラス3展開の習熟度別授業を実施している。いちばん基礎的なクラスは20人くらい。個別指導ができるので、生徒の数学に取り組もうとする姿勢が見られ、理解度の向上が図れる。

委員：

○中学ではいろんな生徒が集まってくる。学習意欲の低い生徒も増えている。習熟度別授業で点数が上がっても、自己肯定感の低い生徒がいる。授業の中でできたと感じる機会が少ない。点数だけでなく、中学校でも高校でも、そのような生徒の自尊感情を高めていく工夫をしていきたいと思う。

○自信のある子とない子が極端。家の中での会話があるかどうかで影響していると思う。自信のない子は就職してもすぐやめる。就職内定率は100%と努力して指導してもらっているが、就職後の定着率はどうか。

事務局：

追跡調査はしていない。すぐに辞めたと苦情が来たのは3年間で1件だけだが、他にあったかどうかわからない。

委員：

○自信を持たせる取り組みをしてほしい。学校教育自己診断では「学校に行くのが楽しい」という生徒は64ポイントだが、この数字を上げるようにしてほしい。クラブ活

動もいいと思う。どれぐらい加入しているのか。

事務局：

1年生の1学期で6割程度。

委員：

○クラブでは横のつながりだけでなく、タテのつながりができる。これが大事。

事務局：

クラブを3年間続けるのは達成感があると思う。その他、気仙沼復興支援ボランティアなど社会貢献活動への参加もいいと思う。ESDパスポートに社会貢献活動の記録を残し自分の活動が目に見える形にするなど、いろいろな取り組みを行っている。今後も生徒に自信を持たせる取り組みを行っていく。

委員：

○つばさの卒業生は私の勤める短大にも大勢来ているが、レベルが上がっている。

○今の大学生は集中力に欠けると感じているが、集中力は幼児のうちから訓練が必要だ。また、忍耐力も弱い。忍耐力はものごとを繰り返すことで身につくが、繰り返すから上達する楽しみを知らない。学習にしても繰り返しが基礎となる。教室でがまんしたら授業がわかるようになって楽しい。静かにしていたら授業がおもしろかったという体験が大切。

また、自主性に欠ける学生もいる。小さいころからゲーム遊びばかりしていると自主性は育たない。外遊びなどを通じて、いやなことは「いやだ」といえることがまず大事。「いやだ」と言えないから、親の言うまま、不本意入学ということが起こる。

分数のわからない子の話がでていたが、そのような子はケーキの切り方がわからない。例えば、8等分するにはどのような切り方をすればいいかわからない。端から切っていく。この分数の概念を獲得するのに、子どもの頃の外遊びの経験が関係している。

今の学生は学力的には上の者も下の者もいるが、生活力、忍耐力は弱い。そのような学生に「わかる授業」はむずかしい。どうか点数を上げるだけでなく、それ以外の力も付ける教育をしてほしい。

<その他>

保護者からの意見はなかったことを報告。

事務局：様々なお指摘・ご示唆をいただき、ありがとうございました。本日の議論を参考に、次年度の教育活動を組み立てたいと存じます。